

**令和元年度 札幌市行政評価
外部評価報告書（案）**

**令和2年（2020年）1月
札幌市行政評価委員会**

《 目 次 》

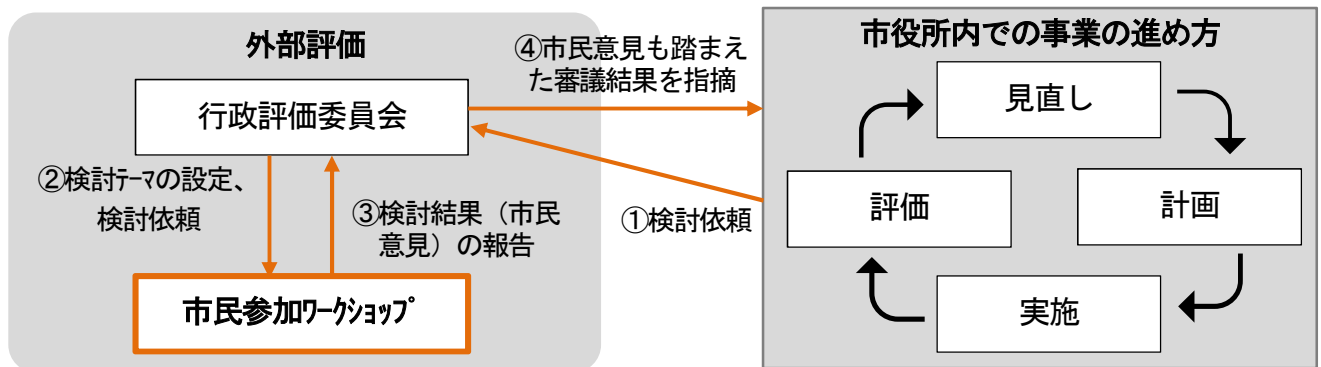
第1章 外部評価の概要	- 1 -
1 評価の目的と対象	- 1 -
2 評価対象施策・事業の選定	- 1 -
3 評価の流れ	- 2 -
第2章 市民参加の取組（市民参加ワークショップ）	- 3 -
1 取組の概要	- 3 -
2 対象テーマの設定	- 3 -
3 開催日程	- 4 -
4 参加者	- 4 -
5 実施方法	- 4 -
6 実施結果とその活用	- 4 -
第3章 各評価対象施策及び関連事業の評価結果	- 6 -
1 施策・事業の概要	- 6 -
2 評価結果	- 11 -
局別評価対象施策・事業一覧	- 15 -
第4章 出資団体の取組に関する評価	- 16 -
1 団体の概要	- 16 -
2 当該財団の在り方等に関する検討経緯	- 16 -
3 団体所管局の考え（ヒアリング結果）	- 16 -
4 評価	- 17 -
行政評価委員会の委員構成	- 18 -
参考資料	- 18 -

第1章 外部評価の概要

1 評価の目的と対象

外部評価は、市外部の有識者からなる行政評価委員会（以下「委員会」という。）が施策・事業を選定し、客観的な視点による評価を行う。また、特に市民目線・市民感覚を踏まえる必要性が高いテーマについては、市民が直接参加する「市民参加の取組（ワークショップ[※]）」を実施する。ワークショップの詳細については、第2章（P. 3～）のとおり。

※ワークショップ：いろいろな立場、考えの人が集まり、お互いの意見を理解し合いながら、課題や方向性を見出す「参加型の会議」。



参考：行政評価委員会と市民参加の取組の関係図

今年度の外部評価では、札幌市が平成30年度に実施した予算小事業とその上位目的である施策を評価対象事項として評価を実施した。

2 評価対象施策・事業の選定

委員会での議論の熟度を高め、評価を通じた取組課題等の抽出を行うため、委員会の合議により、以下の視点から、「札幌市まちづくり戦略ビジョン・アクションプラン2015」に掲載している施策・事業のうち、4施策21事業を評価対象に選定した。

<評価対象を選定するための視点>

- ① 特定の分野に偏ることなく、多様な分野から政策的なバランスを考慮して施策・事業を選定するため、近年（直近3か年）、行政評価の対象となっていない施策に着目し、優先的に今回の評価対象として検討を行う。
- ② 重点課題・施策の目的を踏まえ、その実現に関わりが深い事業の中から、事業規模や事業数、事業の性質、事業成果の達成状況等を考慮の上、対象事業を選定する。
- ③ より効果的な評価とするために、選定は関連する複数の事業のまとまり（事業群）での評価も可能とする。
- ④ 行政評価委員会と連携した市民参加の取組（ワークショップ）を行うことから、市民生活と関わりの深い事業や市民との協働の要素が大きい事業等、市民目線・市民感覚で議論することが特に有意義と考えられる事業を含む分野（施策）にも配慮して選定する。

※評価対象と選定理由は表1のとおり。

【表 1】 評価対象施策・事業と選定理由

評価対象	選定理由
施策：「施策 4－2 魅力あるまちづくりと観光振興の一体的推進」 事業：文化施設の活用推進、保全・保存活用等に関する 8 事業	文化財の保存や活用などに対し、札幌市がどのような取組を行っているか、また、今後どのような取組を行うか確認する必要があるため。
施策：「施策 5－1 世界の活力を取り込む国際戦略の積極展開」 事業：市内企業の海外展開の支援等に関する 5 事業	世界に対し、札幌の魅力をどのように発信しているのか、海外販路や海外進出企業の育成について、札幌市がどのような取組を行っているか確認する必要があるため。
施策：「施策 6－2 誰もが活躍できる社会の実現」 事業：女性や高齢者などの就業や起業の支援等に関する 5 事業	人口減少が見込まれる札幌市において、人材活用の必要性が高まることから、女性や高齢者の雇用の課題に対し、札幌市がどのような取組を行っているか、また、その有効性について確認する必要があるため。
施策：「施策 9－6 多様な交流を支える交流拠点②高次機能交流拠点」 事業：文化芸術施設及びスポーツ施設の整備や保全に関する 2 事業	多額の費用を要する、文化芸術施設やスポーツ施設の整備、保全について、札幌市がどのような取組を行っているか、今後どのような取組を行うか確認する必要があるため。

3 評価の流れ

委員会は、評価対象事業を選定した後、市が行った自己評価の評価調書等に基づき、事業所管局へのヒアリング（聞き取り調査）を実施し、取組状況を確認した。さらに、市民参加の取組（ワークショップ）の結果から、市民ニーズの傾向を把握した。

ヒアリングにおいて論点となった事項やワークショップで出た市民意見等を基に、事業所管局への確認を経て、委員会の合議により最終的な評価結果をまとめた。

《行政評価委員会の活動経過》

令和元年 6月 6日	第 1 回行政評価委員会（評価対象施策の選定等）
7月10日	第 2 回行政評価委員会（評価対象事業及び市民参加の取組の対象テーマ選定等）
8月 6日	ヒアリング 「施策 4-2 魅力あるまちづくりと観光振興の一体的推進」 「施策 5-1 世界の活力を取り込む国際戦略の積極展開」 「施策 6-2 誰もが活躍できる社会の実現」 「施策 9-6 多様な交流を支える交流拠点②高次機能交流拠点」
8月24日	（参考）第 1 回市民参加ワークショップ（課題の抽出）
9月 8日	（参考）第 2 回市民参加ワークショップ（課題解決に向けた方策の検討）
11月 5日	第 3 回行政評価委員会（指摘事項案等の協議）
12月11日	第 4 回行政評価委員会（報告書の検討）

第2章 市民参加の取組（市民参加ワークショップ）

1 取組の概要

委員会における評価対象項目のうち、特に市民目線や市民感覚を踏まえる必要性が高いと判断し、委員会が選定したテーマ（下記のとおり）について、市民参加型のワークショップを実施し、市民意見の聴取が行われた。

ワークショップの実施にあたっては、対象テーマに関連する現在の市の取組について参加者の理解を深めた上で、話し合いの時間を長く取り活発な議論を行っていただくために、参加者に事前に対象テーマに関連する市の取組内容について資料を確認していただき、あらかじめ「どのような取組・アイデアがあるか」を検討していただいた上で、ワークショップにご参加いただいた。

2 対象テーマの設定

対象テーマは、委員会の合議により、今年度の評価対象の中から次のとおり設定した。

テーマ：「子育てと仕事の両立ができる社会～女性がより活躍できる社会を目指して」
（施策「6-2 誰もが活躍できる社会の実現」関係）

<設定理由>

昨今、少子高齢化などの理由から、様々な業種で労働力の不足が顕在化しつつある。そのような中、女性の就業など社会における女性活躍への期待が高まっている。

札幌市は人口に占める女性の比率が高いまちであるが、働く女性の比率は全国と比べて低くとどまっている。一方で、結婚等を理由に離職する女性が多く、現在仕事をしていない女性の就業希望の割合は高い状況となっている。

以上を踏まえると、男女共同参画社会^{*}を推進するという観点から、また、活力ある札幌を維持していくためには、就業においても、女性がより活躍できる環境を整えていく必要がある。

これらを踏まえ、札幌市行政評価委員会では、市民参加ワークショップで検討いただくテーマとして「子育てと仕事の両立ができる社会～女性がより活躍できる札幌を目指して」を設定した。

(※男女共同参画社会：性別に関わりなく人権を尊重し合い、責任を分かち合い、それぞれの個性と能力を十分に発揮し、誰もがその利益を均等に享受することができる社会)

3 開催日程

日時	議論の目的
令和元年8月24日(土) 13:30~17:15	「女性の活躍」に関する課題などについて意見いただき、整理する。
令和元年9月8日(日) 13:30~17:15	第1回の市民ワークショップで提案いただいた課題解決に向け、「どのような取組を行うべきか」ご意見をいただく。

4 参加者

参加者の募集にあたっては、無作為抽出の18歳以上の市民3,000名に参加案内を送付したほか、例年、若い世代の参加が比較的少ないことから、学生の参加を募り、合わせて31名※の市民に参加いただいた。性別・年代別の内訳は、下表のとおり。

※いずれかの回に参加いただいた方

【ワークショップ参加者内訳（性別・年代別）】

(単位：人)

	年 代							
	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	合 計
第1回目								
男性	0	0	5	2	4	2	2	15
女性	1	1	3	5	1	3	2	16
合計	1	1	8	7	5	5	4	31
第2回目								
男性	0	0	3	2	4	2	2	13
女性	1	1	3	4	1	3	2	15
合計	1	1	6	6	5	5	4	28

5 実施方法

ワークショップは、性別、年代を勘案しグループ分けを行った。進行は、メインファシリテーター（全体の司会進行を行うまとめ役）を1名、市民議論を円滑に進めるためのテーブルファシリテーター（進行役）を各テーブルに1名ずつ配置して行った。

なお、初対面の市民同士が意見交換しやすくなるような議論の場づくりや議事の中立性を高めるため、ファシリテーター業務等については、市外部の専門事業者に委託した。

6 実施結果とその活用

各テーブルにおける議論の結果からは、市民目線から多様な意見や提案が導き出された。（主な市民意見は表2のとおり）

各グループからは独自の取組が挙げられる一方で、共通の課題が多く出された。

ワークショップにおける各グループの議論の経過及び結果の詳細については、巻末参考資料「市民参加の取組（ワークショップ）報告書」のとおり。

委員会としては、これらの市民意見を踏まえて、施策6-2「誰にもが活躍できる社会の実現」に関する指摘（P.11～）の検討を行った。

【表2】ワークショップにおける主な市民意見の内容

分類	内容
働き方改革	<ul style="list-style-type: none">・リモートワークなどの多様な働き方改革の実施が有効ではないか。・育児休暇の促進といった企業の取組が重要。・女性や子育てに限らず、待遇・就業環境改善が必要。
男女共同参画の意識改革	<ul style="list-style-type: none">・学校や家庭で男女共同参画につながるような教育を行うべき。・男女の考え方の違いを理解するために、より一層のアピールが必要。
行政によるPR	<ul style="list-style-type: none">・行政による啓発や事業のPRが重要。・行政職員や議員などが率先して育児休暇を取得し、その必要性をPRするべき。・市民に対しての企業の働き方やPRなどの情報を提供する。・地下鉄やチカホなどの広告スペースで、女性応援企業の広告を出す。

第3章 各評価対象施策及び関連事業の評価結果

1 施策・事業の概要

(1) 施策「4-2 魅力あるまちづくりと観光振興の一体的推進」

【施策概要】

自然、食、文化芸術、スポーツなど、札幌らしい魅力資源を磨き、観光関連産業同士の連携を生むことで新たな都市観光を創造する。さらに、「北海道のショーケース」として道内各地の魅力が集まることを生かし、来訪者の集客・再訪、周遊・滞在を促進し、札幌・北海道の観光消費の拡大、付加価値の向上を図る。

政策分野	産業・活力			
政策目標	4 北海道経済の成長をけん引する街（創造戦略4：札幌型産業創造戦略）			
施策	2 魅力あるまちづくりと観光振興の一体的推進			
成果指標	指標	現状値(H26)	目標値(H31)	目標値(H34)
	観光地としての総合満足度 （「満足」と回答した人の割合）	23.0%	36.1%	40.0%
	札幌市内での総観光消費額	4,293 億円	4,414 億円	4,700 億円
	年間来客数	1,342 万人	1,441 万人	1,500 万人
評価対象事業の 予算・決算額	平成30年度予算額	416,021 千円	平成30年度決算額	406,206 千円

【評価対象事業】

事業名	事業の概要	30年度予算	30年度決算
時計台魅力アップ推進事業	札幌のシンボル時計台の魅力アップと更なる集客を図るために、劣化が進んでいる屋根や外壁の塗装等を行う外部改修工事を実施する。	66,000 千円	63,443 千円
歴史的資産活用推進事業	地域に存在する文化財を保存・活用しながら、地域の活性化及び魅力あるまちづくりを目指す、歴史文化基本構想の策定に向けた検討を行う。	10,000 千円	7,419 千円
豊平館保存活用事業	豊平館を市民に親しまれる観覧施設として積極的に活用していくため、保存活用工事を行い、平成28年度にリニューアルオープンした。リニューアルオープン後は指定管理者による管理運営を実施する。	39,266 千円	39,266 千円
旧永山邸及び旧三菱鉱業寮保存活用事業	新たな歴史観光文化スポットとして施設の魅力アップと集客を図るため、保存活用工事を行い、平成30年度にリニューアルオープンした。リニューアルオープン後は指定管理者による管理運営を実施する。	28,755 千円	28,755 千円

事業名	事業の概要	30年度予算	30年度決算
文化芸術施設リフレッシュ事業	市民が安全・快適に文化芸術に親しめる環境を維持していくため、芸術の森、札幌コンサートホール等、老朽化している施設の改修や設備・備品の更新を実施する。	85,000千円	104,020千円
文化財施設保全事業	重要文化財施設等の歴史的価値を保ち、次世代に継承することを目的とし、計画的な保存修理を行うための保全計画の策定を実施する。	3,000千円	2,360千円
札幌市資料館リノベーション事業	歴史的建造物である札幌市資料館（旧札幌控訴院）を後世に継承するための耐震、保全改修を行うとともに、高齢者や障がい者を含めたすべての人が利用できる施設とするためバリアフリー化を図るリノベーションに着手する。	24,000千円	943千円
札幌交響楽団運営補助事業	札幌コンサートホール（Kitara）を中心に、市民に優れた音楽鑑賞機会を提供するなど、本市音楽界発展の原動力として文化芸術の振興に大きく寄与している札幌交響楽団の運営を支援する。	160,000千円	160,000千円

(2) 施策「5-1 魅力あるまちづくりと観光振興の一体的推進」

【施策概要】

中小企業の海外ビジネス展開や海外からの集客を図るため、アジアや北方圏の経済発展地域に対するマーケティング活動の促進やMICE誘致などを強化するとともに、企業や市民の国際化を促進するための仕組みを強化する。

政策分野	産業・活力			
政策目標	5 国内外の活力を取り込む街（創造戦略5：都市ブランド創造戦略）			
施策	1 世界の活力を取り込む国際戦略の積極展開			
成果指標	指標	現状値(H26)	目標値(H31)	目標値(H34)
	グローバル化への取組を行っている企業の割合	12.3%	37.5%	45%
	国際会議の開催件数（暦年）	101件	120件	130件
評価対象事業の予算・決算額	平成30年度予算額	156,000千円	平成30年度決算額	143,740千円

【評価対象事業】

事業名	事業の概要	30年度予算	30年度決算
海外拠点強化事業	北京駐在員事務所運営、香港及び台湾における食品海外コーディネート事業により企業の海外展開等を支援する。	46,000千円	45,993千円

事業名	事業の概要	30年度予算	30年度決算
外需獲得商材開発支援事業	食分野・IT分野における市内企業の輸出仕様の商品・サービスの開発支援及び外国人観光客向けの商品等の開発を支援する。	36,000千円	24,126千円
有望産業海外ビジネス展開支援事業	将来有望と見込まれるIT産業・環境産業等の海外展開を支援し、新たな有望市場への参入機会を創出する。	12,000千円	15,429千円
食品海外販路拡大支援事業	市内食関連企業の海外事業展開の促進に向けた現地市場視察、展示会への出展、道内商社を活用した輸出の取組等を支援する。	45,000千円	41,989千円
海外進出企業育成支援事業	外食産業の海外展開に向けた企業のフランチャイズ提携を主目的とした展示会等への出展を支援する。	17,000千円	16,203千円

(3) 施策「6-2 魅力あるまちづくりと観光振興の一体的推進」

【施策概要】

子育てなどと仕事が両立できるように、子育て支援環境の充実やワーク・ライフ・バランスの取組の促進などを通じて、働く意欲のある女性の活躍しやすい環境をつくる。また、豊富な社会経験・知識・技能を持つ高齢者の起業、就職を支援することなどにより、社会的課題を解決するソーシャルビジネスやコミュニティビジネスなどの活動を促進し、女性を始め、誰もが活躍できる社会を実現する。

政策分野	産業・活力			
政策目標	6 産業分野の人材を育む街（創造戦略6：産業人材創造戦略）			
施策	2 誰もが活躍できる社会の実現			
成果指標	指標	現状値(H26)	目標値(H31)	目標値(H34)
	仕事と生活の調和が取れていると思う人の割合	47.3%	65.0%	70.0%
	女性の有業率	45.2%	57.2%	60.0%
評価対象事業の予算・決算額	平成30年度予算額	319,600千円	平成30年度決算額	288,416千円

【評価対象事業】

事業名	事業の概要	30年度予算	30年度決算
女性向けキャリア支援事業	創業を目指す女性の活躍を後押しするため、男女共同参画センターで実施している女性向けコワーキングスペース事業のレベルアップを図り支援を強化するほか、女性の起業・就業への支援を行うコミュニティの形成を図る。	2,600千円	2,575千円
仕事と暮らしのライフプラン支援事業	札幌の未来を担う若者たちが、仕事と暮らしの調和したライフプランを実現できるよう、様々な情報発信を行うとともに、育休代替職員雇用への助成など、企業に対する支援を充実させ、ワーク・ライフ・バランスの推進を図る。	23,000千円	11,319千円
子育てママ再就職支援事業	漠然と働きたいと考えていながらも、不安や悩みを持っていることから就職活動に踏み切れない女性をキャリアカウンセラーによる支援等により、自立的に活動できるようサポートする。	58,000千円	55,892千円
就業サポートセンター等事業	就業サポートセンター及び各区あいワークにおいて、ハローワークと連携した職業紹介等を行います。また、高齢者向けのセミナーや求人開拓などにより、高齢者の就業を支援する。	181,000千円	163,630千円
女性社員の活躍応援事業	女性が働きやすい環境づくりのため、女性及び企業向けにセミナーを開催するほか、「ロールモデルづくり」に取り組み、取組過程をまとめた事例集をセミナー等を通じ、広く発信することにより『女性活躍』を企業に浸透させる。	23,000千円	23,000千円
札幌市シルバー人材センター運営費補助事業	高齢者が働くことを通じて社会参加し、自らの生きがいの充実と健康の増進を図るとともに、活力ある地域社会作りに貢献することを目的とする札幌市シルバー人材センターを支援するため、運営費の一部を補助する。	32,000千円	32,000千円

(4) 施策「9-6 魅力あるまちづくりと観光振興の一体的推進」

【施策概要】

産業や観光、文化芸術、スポーツなど、札幌が持つ高次な都市機能を十分に生かし、国内外からの投資や多くのヒト・モノを呼び込むために、必要な基盤・施設の整備や、都市機能を更に高める取組の推進などにより、魅力と活力あふれる都市を目指す。

政策分野	戦略を支える都市空間			
政策目標	9 世界都市として魅力と活力あふれる街（都市空間創造戦略）			
施策	6 多様な交流を支える交流拠点 ②高次機能交流拠点			
評価対象事業の 予算・決算額	平成30年度予算額	1,426,161千円	平成30年度決算額	1,178,869千円

【評価対象事業】

事業名	事業の概要	30年度予算	30年度決算
(仮称)丘珠縄文遺跡公園整備・運営事業	さとらんど内に保存されている丘珠縄文遺跡を活用して、食文化を始めとする縄文文化を体感できる施設を平成30年度までに整備し、札幌の縄文文化の魅力を発信するとともに、さとらんど全体の魅力アップにもつなげていく。	12,161千円	11,775千円
札幌ドーム保全事業	開業から14年が経過している札幌ドームについて、計画的に保全改修工事を行い、大規模イベントなどを継続的に開催できる環境を保つ。	1,414,000千円	1,167,094千円

2 評価結果

(1) 指摘事項総括

ア 施策「4-2 魅力あるまちづくりと観光振興の一体的推進」

本施策は、「北海道経済の成長をけん引する街」づくりを目指し、札幌・北海道の観光消費の拡大、付加価値の向上等を行うものである。

札幌市は、時計台を始めとする文化財を多数有しているが、なかには市民や来訪者に対する周知が十分でなく、その魅力や価値を存分にいかしきれていない施設もあると推察する。

今後、文化財の保存を行うに際しては、より効果的な情報発信などについて、まちづくりへの活用といった様々な視点を取り入れながら、取り組んでいく必要がある。

イ 施策「5-1 世界の活力を取り込む国際戦略の積極展開」

本施策は、「国内外の活力を取り込む街」の実現を目指し、中小企業の海外ビジネスの展開や海外からの集客を図るため、企業や市民の国際化を促進するための仕組みの強化等を行うものである。

当該施策については、内需が先細る見通しの中、どのように海外の力を取り込むか、札幌市の経済という側面において、非常に重要な施策である。

札幌市は、市内企業の海外進出に向けた、様々な事業を行っているが、市内企業の積極的な海外進出に向けて、これまでの取組結果などの周知や事例の共有、意識の醸成に関する取組をより一層行う必要がある。

ウ 施策「6-2 誰もが活躍できる社会の実現」

本施策は、「産業分野の人材を育む街」の実現を目指し、子育て支援環境の充実やワーク・ライフ・バランスの取組の促進などを通じて、女性の活躍しやすい環境をつくるなど、女性を始め、誰もが活躍できる社会の実現等を行うものである。

人口減少・少子高齢化が進行する中、女性や高齢者の雇用確保は、今後ますます重要性が高まるものであり、SDGs*推進の視点も踏まえながら、これまで以上に積極的に事業展開していく必要があると考える。

事業の実施にあたっては、市役所内部の意識醸成をより一層進めるとともに、市民や企業に対しての効果的な広報について引き続き検討し、取り組んでいく必要がある。

(※SDGs：Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）の略称)

エ 施策共通「4-2 魅力あるまちづくりと観光振興の一体的推進」

「9-6 多様な交流を支える交流拠点②高次機能交流拠点」

両施策において、公益法人の運営に対する補助金を交付する事業がある。

補助金の交付に際しては、札幌市が補助金交付を通じて各団体に期待する姿を改めて確認した上で、様々な視点から補助金の在り方について検証を行う必要がある。

(2) 指摘事項詳細

No.1 補助金の在り方について

札幌市では、「公益財団法人札幌交響楽団」「公益社団法人札幌市シルバー人材センター」の運営費に対し、補助金を交付しているとの説明があった。

補助金の交付にあたっては、補助の目的や必要性などを踏まえ交付しているものと認識しているが、時代の変化に伴い、各団体を取り巻く環境が変化している可能性もあることから、札幌市が各団体に期待する姿を再確認した上で、補助金の在り方を検討していく必要があるものと思われる。

については、補助金の交付に関わる事業に関して、以下の事項に取り組むこと。

No	指摘対象	指摘内容	所管部
1	札幌市交響楽団 運営補助事業	補助金に関して、札幌市が各団体に期待する姿を再確認し、その目的や効果、必要性などを引き続き検討した上で、多角的な視点から補助金の在り方について検証を行うこと。	市) 文化部
	札幌市シルバー 人材センター運 営費補助事業		経) 雇用推進部

No.2 文化財保存に関する情報発信について

札幌市では、札幌市が所有する文化財施設を適切に保全し、次世代に継承していくため、保全計画を策定し、計画的な改修工事を実施しているとの説明があった。文化財の中には、時計台を始めとした認知度の高い施設がある一方、認知度に改善の余地がある施設もあるとのことであった。

文化財は札幌の魅力アップや観光振興、地域活性化に寄与する貴重な地域資源であることから、その保存を進めるにあたっては、文化財をまちづくりに活用するなど、様々な手法の検討を進め、文化財の魅力に関する情報発信により一層取り組んでいくことが重要であると考ええる。

については、文化財の保存や活用に関わる事業について、以下の事項に取り組むこと。

No	指摘対象	指摘内容	所管部
2	歴史的資産活用 推進事業	文化財の保存を行うにあたっては、文化財をまちづくりに生かしていくための手法の検討も含め、より一層、文化財の魅力についての情報発信に取り組むこと。	市) 文化部
	文化財施設保全 事業		

No.3 市内企業の海外進出支援の検討

札幌市では、少子高齢化により内需先細る見通しの中、海外市場をターゲットとし、市内中小企業の輸出、海外展開を推進支援する様々な事業を行っているとの説明があった。しかし、海外進出を志す企業が固定化している傾向にあり、消極的な状況も見受けられるとのことであった。

海外進出支援においては、個々の企業の状況、ニーズに合わせた多様なアプローチが必要であり、より効果的な支援に向けて、これまでの取組結果の検証、周知、成功事例の共有に重点を置きながら、意識醸成の取組、輸出手続きの支援強化などについて、今まで以上に取り組んでいかななくてはならないと考える。

については、海外進出支援に関わる事業について、以下の事項に取り組むこと。

No	指摘対象	指摘内容	所管部
3	有望産業海外ビジネス展開支援事業	市内企業の積極的な海外進出の促進に向け、現状の検証を行った上で、取組結果や事例の共有、マイノリティの醸成や輸出手続き支援など、企業への支援方法や周知方法について検討すること。	経) 国際経済戦略室
	海外進出企業育成支援事業		

No.4 市民・企業に対する効果的な広報

札幌市では、女性の有業率が全国的にも低いという特性を踏まえ、女性の活躍に向けた支援策として、子育て中の女性を対象にしたセミナー等の実施や、各企業が抱える個別の課題に特化した企業向けの出前講座等を行っているとの説明があった。

事業の取組結果を事例集にまとめ、市内企業への広報を行っているところであるが、女性が働きやすい環境の整備などにおいては企業側の理解が欠かせないことから、セミナー等の実施にあたっては、企業に対してこれまで以上に必要性をアピールしていく必要があると考える。

については、市民・企業に対する効果的な広報に関し、以下の事項に取り組むこと。

No	指摘対象	指摘内容	所管部
4	女性社員の活躍応援事業	セミナー等の事業の実施にあたっては、市民に対する広報のみならず、企業への訴求も含めた効果的な広報について、引き続き検討すること。	経) 雇用推進部

No.5 各取組にかかる関連部署との連携

札幌市では、女性活躍の推進に向けた取組を現状、各部局でそれぞれ実施しており、どう効果的に連携していくかが重要であるとの説明があった。

女性活躍に関する事業の推進に向けては、これまで以上に、札幌市職員の意識醸成を図り連携の実現を目指していく必要があると考える。また、中期実施計画「札幌市まちづくり戦略ビジョン・アクションプラン 2019」においても SDGs 推進の視点が盛り込まれているとおり、女性活躍推進にあたっては、SDGs の視点も意識した取組が必要と思われる。

については、これらを踏まえ、以下の事項に取り組むこと。

No	指摘対象	指摘内容	所管部
5	女性活躍推進関連 (施策全般)	他部署との連携の実現に向け、庁内における女性活躍推進の意識醸成を、より一層進めること。	市) 男女共同参画室
			経) 雇用推進部
			子) 子ども育成部

局別評価対象施策・事業一覧

対象局	施策/事業	指摘No.
市民文化局	4-2 魅力あるまちづくりと観光振興の一体的推進	
	時計台魅力アップ推進事業	
	歴史的資産活用推進事業	2
	豊平館保存活用事業	
	旧永山邸及び旧三菱鉱業寮保存活用事業	
	文化芸術施設リフレッシュ事業	
	文化財施設保全事業	2
	札幌市資料館リノベーション事業	
	札幌交響楽団運営補助事業	1
6-2 誰もが活躍できる社会の実現		5
	女性向けキャリア支援事業	
	9-6 多様な交流を支える交流拠点②高次機能交流拠点 (仮称) 丘珠縄文遺跡公園整備・運営事業	
スポーツ局	9-6 多様な交流を支える交流拠点②高次機能交流拠点	
	札幌ドーム保全事業	
子ども未来局	6-2 誰もが活躍できる社会の実現	5
	仕事と暮らしのライフプラン支援事業	
経済観光局	5-1 世界の活力を取り込む国際戦略の積極展開	
	海外拠点強化事業	
	外需獲得商材開発支援事業	
	有望産業海外ビジネス展開支援事業	3
	食品海外販路拡大支援事業	
	海外進出企業育成支援事業	3
	6-2 誰もが活躍できる社会の実現	5
	子育てママ再就職支援事業	
	就業サポートセンター等事業	
	女性社員の活躍応援事業	4
札幌市シルバー人材センター運営費補助事業	1	

第4章 出資団体の取組に関する評価

札幌市の出資団体である(一財)札幌産業流通振興協会(アクセスサッポロ)に対しては、平成28年度の行政評価委員会において、「平成29年度に実施する『市内展示機能の在り方検討調査』、その調査を踏まえた財団の在り方等に関わる平成30年度の検討状況について、平成31年度の行政評価委員会に報告すること」との指摘を行っている。

ここでは、当該指摘を踏まえ、団体所管局からのヒアリングをもとに、財団の在り方等に関する検討結果について、点検・評価を行う。

1 団体の概要

(一財)札幌産業流通振興協会(アクセスサッポロ)の概要を表3に示す。

表3 (一財)札幌産業流通振興協会(アクセスサッポロ)の概要

代表者	理事長(非常勤) 石川 敏也(副市長)
基本財産	50,000千円
設立年月日	昭和57年(1982年)2月18日
出資年月日	昭和57年(1982年)2月18日
札幌市出資額	30,000千円(出資割合 60.0%)
主な出資者	札幌市(60.0%)、北海道(20.0%)、関係経済団体(20.0%)
主要事業	展示会・見本市等の開催誘致・開催支援 公益的な展示会等の主催・共催 異業種交流会の開催 札幌流通総合会館(通称:アクセスサッポロ)の管理及び運営

2 当該財団の在り方等に関する検討経緯

- (1) 平成20年度の「札幌市出資団体改革新方針」において、「札幌市における展示場機能の在り方を検討していく中で、平成21年度中に財団の今後の在り方や施設保全計画等を策定する」よう指摘を受ける。
- (2) 平成27年度の「札幌市出資団体の在り方に関する基本方針」において「取組が未達成の団体」としてリストアップされる。
- (3) 平成28年度の行政評価委員会において、「平成29年度に実施する『市内展示機能の在り方検討調査』、その調査を踏まえた財団の在り方等に関わる平成30年度の検討状況について、平成31年度の行政評価委員会に報告すること」と指摘を受ける。

3 団体所管局の考え(ヒアリング結果)

(一財)札幌産業流通振興協会(アクセスサッポロ)への財団の在り方等に関する検討結果について、当該団体を所管する経済観光局にヒアリングを行った。結果は以下のとおり。

(経済観光局の見解)

<施設について>

- ・平成 29 年度に実施した「市内展示機能の在り方検討調査」を踏まえ、施設の必要性について検討を行ったところである。
- ・「市内展示機能」について、市内各施設の稼働率は高く、北海道立産業共進会場の閉鎖などにより、一部イベントが開催できない状況にあるなど、市内展示機能はやや不足している状況にあると考えている。
- ・市内で開催されている展示会・見本市の 6 割以上がアクセスサッポロで開催されており、多くの市内企業に商談や情報収集の場として活用され、経済波及効果は 190 億円に及ぶことから、展示場としての必要性が高いものと考えている。
- ・一方で、施設は老朽化、陳腐化していることから、長期利用か早期更新かを検討する時期にあるが、新 MICE 施設整備、冬季オリンピック・パラリンピック IBC*などといった市内展示機能に影響がある施策の動向等を踏まえながら、2020 年度を目途に移転・更新の是非を検討することとして整理した。(※IBC：International Broadcasting Center (国際放送センター) の略称)

<財団について>

- ・財団の在り方について、平成 21 年度に収支改善の取組状況などを踏まえて検討することとし整理したところであるが、近年の高稼働率を背景に売上高が増加しており、財団の経営状況は改善しつつあり、長期修繕計画をベースにした収支試算の推移を見ても、財団による施設の管理運営が可能であると考えます。
- ・財団は、公共的な役割を担うアクセスサッポロを適正に管理運営しているほか、本市の産業振興施策の補完的役割も果たしていることから、出資の目的が適切に達成されている状況にあると考えます。

<総括>

- ・以上により、その役割を果たしていくためには、本市による経営の関与や、減免等による使用料水準の維持といった一定の関与が必要であることから、現施設を存続させる間は、財団が管理運営を行い、本市の出資は継続する。

4 評価

本件について、行政評価委員会として次のとおり評価する。

評価： (一財)札幌産業流通振興協会 (アクセスサッポロ) への出資の在り方について

- 市内展示機能の需要、施設の活用状況等を勘案すると、現時点で当該施設が札幌市の産業振興に必要であると判断したことは妥当であると考えます。
- 2020 年度以降、施設移転・更新の是非の検討にあたっては、未来の札幌のまちがどうあるべきかという視点に立ち、市民の声を踏まえた検討を進めていただきたい。
- 出資の目的が適切に達成されていることに加え、市の施策の動向等様々な要因が関わることなども考慮すると、出資継続の判断は妥当であると考えます。

行政評価委員会の委員構成

委員長	いしい よしはる 石井 吉春	北海道大学公共政策大学院 客員教授
副委員長	かにえ あきら 蟹江 章	北海道大学大学院経済学研究科 教授
委員	しのかわ きよひこ 篠河 清彦	篠河清彦公認会計士事務所 公認会計士・税理士
委員	よしだ さとこ 吉田 聡子	(株) 桐光クリエイティブ 代表取締役
委員	かみおか ゆきこ 上岡 由紀子	上野・横山・渡 法律事務所 弁護士

参考資料

市民参加の取組（ワークショップ）報告書

SAPPORO

令和元年度 札幌市行政評価 外部評価報告書

発行 札幌市 総務局 改革推進室
〒060 - 8611 札幌市中央区北 1 条西 2 丁目
電話 011 - 211 - 2061
URL <http://www.city.sapporo.jp/somu/hyoka/>



案